

試験研究成果普及情報

部門	野菜	対象	普及
課題名：カンショ「ベニアズマ」ウイルスフリー優良系統(No. 92)の育成			
[要約] 「ベニアズマ」ウイルスフリー新配付系統No. 92は、これまでの配付系統に比べ、裂開等の障害の発生が少なく、M・L級の割合が高く、いもの形状の揃いが良い。			
キーワード [※] カンショ、ベニアズマ、裂開、ウイルスフリー、優良系統			
実施機関名	主 査	農業総合研究センター育種研究所畑作物育種研究室	
	協力機関	農業総合研究センター北総園芸研究所畑作物園芸研究室	
実施期間	2000年度～2005年度		

[目的及び背景]

「ベニアズマ」は、栽培特性や食味に優れた品種で、本県の主要品種となっているが、現地において生理障害である裂開が多発し、1999年度に香取農業改良普及センターから要望課題として、耐裂開系統の育成を求められた。そこで、場内及び現地圃場から選抜した系統をウイルスフリー化し、優良培養系統を選抜してウイルスフリー苗配付用の元株を育成する。

[成果内容]

- 1 現地圃場から収集した優良株をもとに、ウイルスフリーの154培養系統を作出し、裂開等の障害の発生が少なく、M・L級の割合が高く、いもの形状の揃いが良いNo. 92を2005年度に育成した。
- 2 No. 92の基本的な形質はこれまでの配付系統である系40と同様であるが、系40に比べ、次のような特徴をもっている。
 - (1) 裂開の発生が少ない(図1)。
 - (2) 「ベニアズマ」に多い曲がりの発生は、同程度か少ない。
 - (3) 単価が高いM・L級のいもの割合が高い(図2)。
 - (4) いもの形状の揃いが良い(写真1、写真2)。
 - (5) 株当たりいも数、いもの長さ、最大径はほぼ等しいが、平均いも1個重はやや軽い(表1)。
 - (6) 収量は年度及び植付け時期により異なるが、a当たり300～400kg程度で、やや少ない(図3)。

[留意事項]

[普及対象地域]

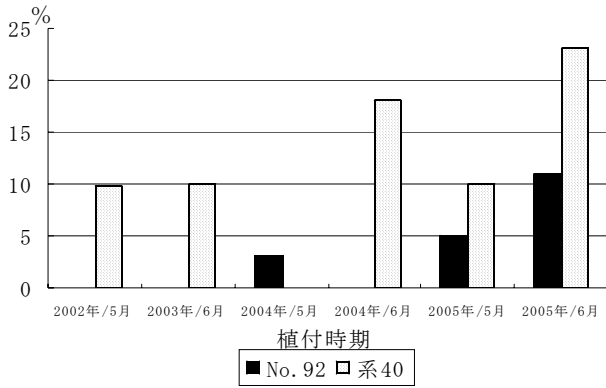
県下カンショ栽培地帯

[行政上の措置]

[普及状況]

No. 92は、2004年度にJA全農ちばに試験配付を開始した。2006年度の配付数量は2,500鉢で、「ベニアズマ」ウイルスフリー苗全体の約81%を占めている。

[成果の概要]



注) 表示のないものは発生率ゼロ

図1 選抜系統いもの裂開の発生率

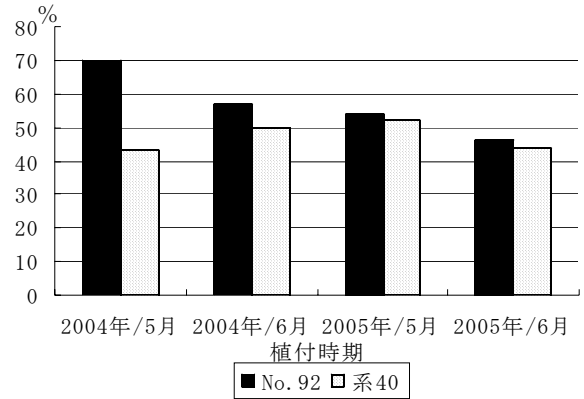


図2 選抜系統いものM・L級の割合



写真1 選抜系統いもの形状(10株)



写真2 系40のいもの形状(10株)

表1 選抜系統いもの調査結果

植付時期	系統番号	株当たり		平均			
		いも重 (g)	いも数 (本)	いも1個重 (g)	長さ (cm)	最大径 (cm)	長径比
2004年/5月	No. 92	910	3.0	303	18.3	5.6	3.3
	系40	984	3.0	328	18.9	5.5	3.5
2004年/6月	No. 92	1,028	4.4	234	21.0	4.5	4.7
	系40	990	3.8	260	21.4	4.5	4.7
2005年/5月	No. 92	1,077	4.2	256	21.1	4.6	4.6
	系40	1,214	4.6	267	20.6	4.6	4.5
2005年/6月	No. 92	692	3.4	202	17.4	4.8	3.6
	系40	915	4.0	229	17.7	5.1	3.5

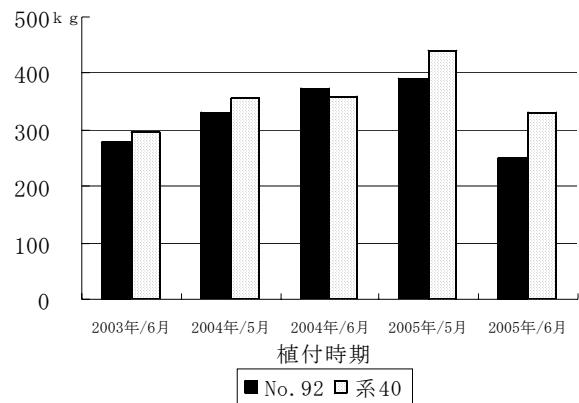


図3 選抜系統のa当たり換算いも重

[発表及び関連文献]

平成12年度試験成績書 千葉県原種農場

平成13~17年度育種試験成績書 千葉県農業総合研究センター育種研究所

[その他]

平成11年度試験研究要望課題 (提起機関: 香取農業改良普及センター)